慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	表紙 目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1957
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.50, No.7 (1957. 7)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19570701--001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

三田學會雜誌

慶應義塾経済学会

七　月　号

論　説

日本産業構造の問題点……鈴木諒一（一）

成長モデルにおける財政政策の扱い方について……大熊一郎（二九）

労働需要の機構……尾崎巌（三八）

——生産函数・生産者行為・賃金格差の関係を含めて——

資本の集積・集中と分裂・分散……北原勇（六三）

——中小工業論序説——

資　料

マルク・ブロック……渡辺国広（七九）

——人と業績——

本邦経済資料解説（二）……片岡一郎（九二）

書評及び紹介

経済学関係文献目録

第五十巻　第七号

昭和三十二年七月一日発行（毎月一日発行）
昭和二十六年二月十三日国鉄特別扱承認雑誌第一、九〇三号
昭和二十五年十月二十四日第三種郵便物認可

三田学会雜誌　昭和三十二年六月号　定価　金九〇円（八送料）

昭和二十五年十月二十四日第三種郵便物認可
昭和二十六年二月十三日国鉄特別扱承認雑誌第一、九〇三号
昭和三十二年六月一日発行（毎月一日発行）

MITA GAKKAI ZASSI

(Mita Journal of Economics)

Vol. 50, No. 6　　June, 1957

CONTENTS

Page

Some Reflections on the Importance of the Study of Regional and Local Economies for the Analysis of an Economic System ..... *E. Kojima* (1)

On the Back-ground and Spirit of the "Ro-no" in the Last Period of Tokugawa..... *T. Shimazaki* (16)

Lorscher Reichsurbar..... *H. Uono* (28)

Die historische Bedeutung des deutschen Bauernkrieges (2).....*M. Terao* (44)

Supplementary Data of Japanese Economy with some introductory remarkes (1).....*K. Tsujimura* (68)

An Essay in the Explanation of the mechanism inherent in the "Zig-zag Tableau" of François Quesnay
Concerning mainly the annotations of Prof. Taro Sakata as translator
.....*T. Watanabe* (80)

Reviews and Notes

Published for
KEIO-GIJUKU KEIZAI GAKKAI
(The Keio Economic Society)
Editorial communications to be sent to the Editor, Keio-Gijuku Keizai Gakkai, Keio-Gijuku University, Mita, Minato-ku, Tokyo, Japan.
Price 90 yen

書評及び紹介

ロンルド・ミーク著『労働価値説研究』――一九五六年――……遊部久蔵（一〇三）

クロンロード『社会主義的再生産』……加藤寛（一二）

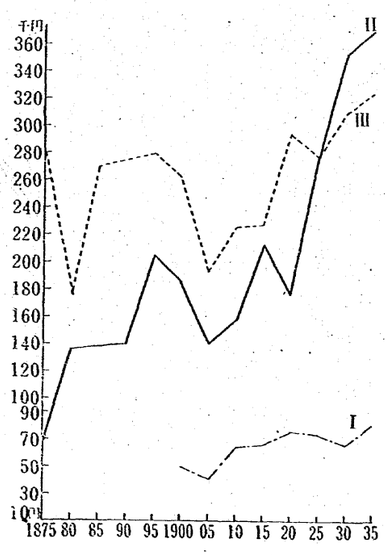
杉原四郎著『ミルとマルクス』……井村喜代子（一四）

日本産業構造の問題点

鈴木諒一

一

経済生活の究極の目的は生活水準の向上にある。国民経済的観点に立てば総実質国民所得の向上がその先決問題であり、そのためには労働生産性と雇用とが増大する必要がある。ところがこの二つの要因はしばしば相矛盾する。西欧諸国に見られるように完全雇用が達成されている場合には生産性向上が国民所得増大の唯一の手段となり失業の心配も余りないから問題は比較的簡単である。これに反しわが国のように多くの潜在失業者を抱えている経済では生産性の向上が先決か、雇用の増大が第一義的かについて多くの論争がなされてきた。この問題の解決のためには、われわれは過去の日本経済の発展のあとを辿って具体的に対策を見出さなければならない。

産業構造の問題はコリン・クラークによって示されたように長期の問題であり、できるだけ昔に遡って考察して行く必要がある。そこで明治年代から戦前までのわが国の経済発展を統計資料によって分析すると第一図及び第一表のようになる。明治初年の国民所得の数字は容易に把握しがたい点があるが、一応この問題を回避して統計を信用して分析してゆくと、第一次産業では就業者一人当りの所得は停滞状態にあって且つ低く、第三次産業の所得は傾向値的発展よりもむしろ循環運動に近い形を示している。この意味で明治年代

第一図
日本産業の一人当り平均実質所得